

算盤組立職人

Vol.05 師匠と会う



「簡潔に言うとな、『ヤバい』」
「そんなに『ヤバい』のか…?」

「その通りだ佐藤くん、あれは『ヤバ
い』」

「なら詳しく聞かせてもらおうか、その
『ヤバさ』とやらを」

「まず第一印象は、『笑顔の爽やかな
翁』なのだよ」

…ほほう。

「立ち居振る舞いに全く死角がない。油
断してるとこちらがやられる」

…む?

「こちらの話しをキチンと聞いて、誰で
あっても丁寧に回答している」

…?

「話しがうますぎて面白い! な、『ヤバ
い』だろ!」

ポク

ポク

ポク

チーン!

「なるほど、それは『ヤバい』な。た
だ、違う意味で、な。」

普段人を褒めることのない彼が絶賛する
ほどの凄い人なのだろう。今まで散々な経
験してきたから、少し話しただけで何と
なく人の事が見えるんだろうな。相変わら
ず凄いヤツだ。

「まず紋切り型の自己紹介をしてから、
いきなりだよ」

「おう、何をしたんだ?」

「小刀と竹と穴のあいた木材を渡され
て、」

「ふむ」

「コマを作れ、と。」

「んな、実技試験か!?」

「恐らく、というか100%そうだな。」

…小刀位使えないヤツは帰れ、というこ
とだろう。

まあ彼ならそれ位なんともなしにやって
のけるんだろうな、俺には全く真似できん
わ。

「その翁はすげー簡単に『コマを作るんだ
よ!』」

「そりゃあ木工のプロだからだろう
な。」

「そんなのを見せられたら燃えるわけだ
よ、佐藤くん」

自分ではバレてないと思ってるようだが、
彼はかなりの負けず嫌いな性格なのだ。

「手元でやってる事をじっくりと見てか
ら、サクッと作ってやりましたよ。フー
ン」

「そんなにすんなりできるなんて思われ
てなかったんじゃないのか?」

「そうみただったよ。ただ、『これぐ
らいできて当然だ、若造よ』みたいな雰囲気
だったよ。」

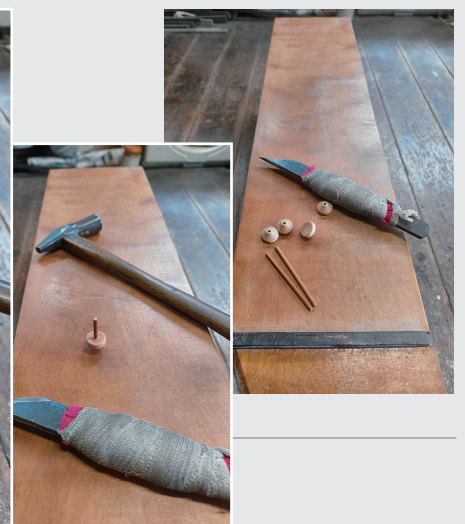
達人同士の立ち合いか、これは?

「その後は和やかに回っている『コマ』に色
付けて楽しんでだよ。」

「…楽しそうな現場だな。」

「てことで、明日から行く事になったよ
ー」

彼のこの急展開さ加減に関して、当たり
前過ぎてもう何も言えない。



profire 高山辰則(龍雲)

2014年より、伝統工芸士/宮本一廣氏のもとで修業。

2015年に播州小野算盤工房shinを立ち上げる。

「全ての人ではなく、できるだけ多くの人に気に入って
もらえる商品を作れ」という師の言葉を継承し、伝統的

工芸品づくりを通じて、その歴史や技術を後世に伝える
ために日々努力をしています。

播州小野算盤工房shin / 高山辰則(龍雲)

<https://tkymtatz.wixsite.com/abacus>